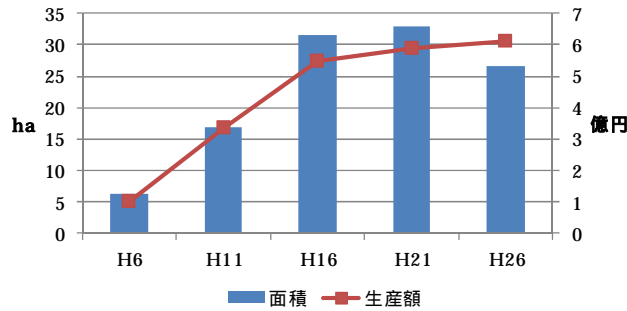


ピオラ

現 状

1.生産規模(生産額・面積は花壇苗全体の数値を活用)

生産額・面積の推移



農業及び水産業生産額実績

- ・高冷地の気候条件を活かし、富士北麓地域や八ヶ岳山麓地域を主体に秋出荷を行っている。
- ・ピオラ等の花壇苗生産量は年間約 600 万ポットで、生産額は6.1億円となっている。

2.生産者の取り組み

- ・栽培講習会や生産者のほ場巡回等を開催し、栽培技術の高位平準化を図っている。
- ・生産者が育成した品種や地域のブランド「ど根性ピオラ」など、他産地と差別化した商品づくりが行われている。また、主要市場に出荷日や数量などの産地情報を提供し、有利販売の拡大に向けて取り組んでいる。

3.県の取り組み

- ・試験研究課題「鉢物栽培で置肥に利用される肥料の窒素溶出特性」の成果を普及するとともに有望品種の選定等への支援を行った。
- ・新品種の現地適応性や品種特性を確認するため、総合農業技術センターで品種展示を行っている。

課 題		対 策			
<p>1【生産】</p> <p>1 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地栽培のため、気候の影響を受けやすく、生育障害が発生しているため、対策技術の確立が求められている。</li> </ul> <p>1 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年各種苗会社から新品種が発表され、数多くの新品種の中から生産者が品種選定をするのは困難である。</li> </ul> <p>1 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場単価が厳しい中でさらなるコスト削減が余儀なくされている。</li> </ul> <p>2【販売】</p> <p>2 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地間競争が激しくなる中で、市場への迅速な情報提供が必要となっている。</li> </ul> <p>2 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元生産物を使った地域飾花が減少している。</li> </ul> <p>2 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな需要を掘り起こす必要がある。</li> </ul>		<p>1 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育障害の要因究明と対策技術について確立を図る。</li> </ul> <p>1 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他産地との差別化を維持するため、新品種の継続的な導入が必要なため、新品種の試作栽培・展示等を実施し農家が品種導入する際の選定支援を行う。</li> </ul> <p>1 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産資材等に関して県内の農家間で情報共有やメーカー等の情報提供などコスト削減に向けた取り組みを支援する。</li> </ul> <p>2 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページなど活用し、有利販売に向けた産地情報や品種特性、管理方法等の情報発信を支援する。</li> </ul> <p>2 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村と連携した飾花活動を推進するため、地域における生産品目をリスト化し、生産団体のホームページ等で情報発信を支援する。</li> </ul> <p>2 -</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元実需者等の消費者ニーズに対応した販売支援を行う。</li> </ul>			
対策に向けたスケジュール	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	
1 -	原因究明・技術確立	→ 技術普及		→	
-	品種展示・農家支援	→			
2 -	情報発信支援	→			
2 -	栽培技術支援	→			